

第30回 GSブームに貢献した ジャガーズの魅力

昭和43年といえば、グループサウンズ（GS）絶頂期にあたり、GS関連映画が10本近く公開されています。

私のお気に入りには、前回ご紹介した『進め！ジャガーズ 敵前上陸』ですが、脚本を共同執筆しているのは、中原弓彦（作家・小林信彦の筆名）で、暗殺団に追いかけるというビートルズ主演映画『HELP!』を踏襲、5人組女性殺し屋グループが登場します。

園江梨子（平山みきの姉、のちの平山洋子）と杉本マチ子のミス・エールフランス受賞の美女コンビのほか、貴乃花親方の母親、旧姓・藤田憲子も色っぽい殺し屋で登場します。

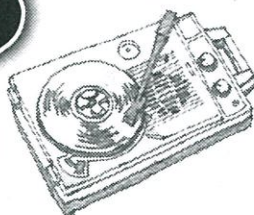
ただ、なぜ「ジャガーズ」なのか。当時、映画の題名にグループ名がいくほどの抜擢に少々疑問を感じていた私ですが、小林信彦が自らのコラムで「当初はスパイダース主演の企画だったのが折り合えず、ジャガーズというC級のグループになった」旨を明かしたことで納得。ただし「C

級」ではないですね。

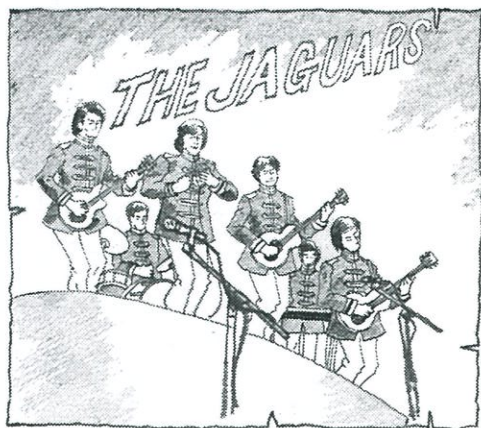
S級ではないものの、私の音楽史の中で彼らは「GSを支えた10大メ

名曲カルテ

昭和歌謡と いつまでも



堀井六郎 浦松本 絵



ジャー・グループ」に名を連ねています。そのジャガーズの功績をほんの少しだけ挙げてみると――。

- 前身の「宮ユキオとプレイ・ファイン」というバンド名を4か月前にデビューしたタイガースにあやかるがごとく、シンプルな動物名に一新したこと。以後、パンマスの存在が頭につくバンド名は激減。

- さらに前身の「野獣会オールスターズ」に16歳の井上順を数か月在籍させていたこと。

- ビートルズの影響でスパイダースがいち早くとり入れたミリタリアルックを普及させるのに最も貢献したこと。

- デビュー曲『君に会いたい』のイントロで披露した横跳びステップで

『シーサイド・バウンド』のタイガースとともに、GSにパフォーマンスの魅力を加えたこと。

- デビュー曲に英語を取り入れ、初期のGSソングに舶来の雰囲気をもたらした。正しい英語ではありませんでしたが、言いたいことは十分に伝わってききました。

『君に会いたい』は詞・曲共に清川正一なる人物が手がけた作品ですが、おそらくジャガーズの前身バンドに連なる人物ではないか、と推察します。歌の出だしで通常はキーコード（Em）から入るところをドミナントコード（B7）を使って始めているところを見ると、ギターを弾けるバンド経験者かもしれません。

フォークルの『悲しくてやりきれない』は、『君に会いたい』の9か月ほど前の発売ですが、加藤和彦が作曲した際、キーコード（F）のサブドミナントコード（B^b）から始めているのと同じ発想です。

『進め！ジャガーズ』は、フォークルの三人が大島渚に罵声を浴びせられながら主演した珍作映画『帰って来たヨッパライ』の併映作品でもありました。

9年前に亡くなったリードボーカルの岡本信、君に会いたい！